

知ってほしい 女性の健康課題

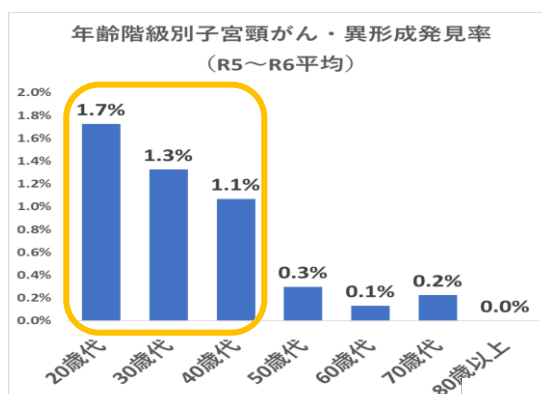
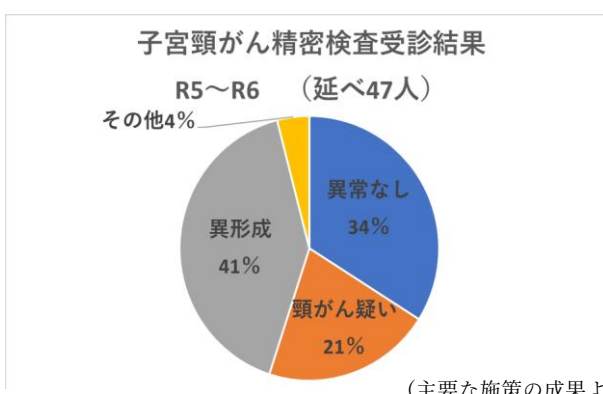
～十日町市が実施した検診後の精密検査受診結果でみえたこと～

子宮頸がん 検診

20～40 歳代に多いがんです。



R5、R6 年度の子宮頸がん検診受診者総数 3598 人のうち、54 人の方が「要精密検査」と判定されています。精密検査を受けた人の約2割の人が「子宮頸がん疑い」と診断されています。



- ◆子宮頸がんは、多くがヒトパピローマウイルス (HPV) の感染によって発症するといわれています。主な感染経路は性行為と考えられ、性行為の経験がある人は子宮頸がんになる可能性があります。
- ◆がんの進行が初期なら、子宮頸部の一部を取り除く治療で、子宮を残すことができます。
- ◆20～40 歳代は他の年代に比べ、「がん疑い」や「異形成」と判定される割合が高いです。
- ◆異形成 (前がん病変) の場合、経過をみていくことで、がんの早期発見ができます。

検診の受け方と注意事項

〈検診方法〉

- (1) 検診車に乗る前にお手洗いを済ませてください。
- (2) 検診車に乗ったら、ズボンの方は持参されたスカートやプールタオル等に履き替え、下着を取ります。
- (3) 診察台で検診を行います。
 - ① 膣鏡を用いて、膣内や子宮頸部 (子宮の入り口) の状態をみます。
 - ② ブラシで子宮頸部の細胞を軽くこすり取ります。

〈受診する際の注意事項〉

- ◆検診にあたり、入浴をして体をきれいにしておいてください。ただし、膣内の洗浄はしないでください。
 - ◆簡単に着脱できる服装でお越しいただき、腰巻き用のタオルなどをお持ちください。
 - ◆生理中の場合は、市または医療機関にご相談ください。
 - ◆検診後に出血することがありますが、通常は少量で、短時間で止まります。2～3 日経過しても出血量が減らない場合は、医療機関 (婦人科) に相談してください。
- ※月経時以外の出血、茶褐色のおりものの増加、下腹部および腰の痛みや性交中の痛みなどの自覚症状がある方は、検診を待たずに早めに医療機関 (婦人科) を受診してください。